「学び」イベント情報 募集中!!

研究者の皆様が市民へ向けて開催している公開講座やシンポジウム等の情報提供をお待ちしております!

掲載料は無料です。

6 JUN

宮城大学公開講座「グローカル感染対策は宮城から！」
6月23日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込
講　師　松永　早苗（宮城大学講師）
場所 宮城大学大和キャンパス　本部棟　定員 50名
主催者 宮城大学　問合先 TEL 022-377-8208
URL http://www.myu.ac.jp/

第153回サイエンスカフェ：貝類にまつわる切実な話～海の有効利用と人工繁殖～
6月29日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　尾定　誠（東北大学大学院農学研究科教授）
場所 東北大学青葉山キャンパス 青葉山コモンズ 1階
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

7 JUL

第154回サイエンスカフェ：数学小噺～日常に数学を～
7月11日(水) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　正井　秀俊（東北大学材料科学高等研究所助教）
場所 せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

江戸の小説を読むためのくずし字入門（全15回）
隔週火曜 13:00▶14:30 有料 要申込
講　師　石川　秀巳（東北大学名誉教授）
場所 宮城学院女子大学　受講料 年間18,000円
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4341
URL http://www.mgu.ac.jp/

大人が楽しむ児童文学―物語から世界を見る（全20回）
毎週木曜 14:40▶16:10 有料 要申込
講　師　大沼　郁子（児童文学研究者・宮城学院女子大学非常勤講師）
場所 宮城学院女子大学　受講料 年間24,000円
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4341
URL http://www.mgu.ac.jp/

『平家物語』の感動的な場面を読み味わう（全10回）
指定水曜 14:40▶16:10 有料 要申込
講　師　鈴木　則郎（東北大学名誉教授）
場所 宮城学院女子大学　受講料 年間12,000円
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4341
URL http://www.mgu.ac.jp/

古代の文書を読む（続シン・古代史講義）（全12回）
指定木曜 14:40▶16:10 有料 要申込
講　師　大平　聡（宮城学院女子大学教授）
場所 宮城学院女子大学　受講料 年間14,400円
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4341
URL http://www.mgu.ac.jp/

歴史散歩道～ブラキムラ入門編～（全6回）
隔週金曜 13:00▶14:30 有料 要申込
講　師　木村　浩二（宮城学院女子大学非常勤講師）
場所 宮城学院女子大学　受講料 前期8,400円
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4341
URL http://www.mgu.ac.jp/

初期キリスト教思想と現代（全12回）
隔週土曜 13:00▶14:30 有料 要申込
講　師　新免　貢（宮城学院女子大学教授）
場所 宮城学院女子大学　受講料 年間14,400円
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4341
URL http://www.mgu.ac.jp/

ニュースが楽しくなる経済学（全22回）
毎週金曜 10:30▶12:00 有料 要申込
講　師　田中　史郎（宮城学院女子大学教授）
場所 宮城学院女子大学　受講料 年間26,400円
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4341
URL http://www.mgu.ac.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

第41回 名著への旅

『人はなぜ物語を求めるのか』
千野帽子 著
ちくまプリマー新書

（2017年3月10日第一刷発行）

本書は物語論を通じて、人間の思考や理解の方法、さらには人間そのものを探求している。

例えば、自己紹介は自分の来歴を「物語」として語ることであるし、不幸にあった場合には「日頃の行いが悪いから……」と因果付けることで理解・説明しようとする。つまり、人間は出来事同士を自ら選択し、因果付けることで自身を理解・説明する「物語る動物」である。

「物語る動物」としての特性を知ることは、自分の思考のクセを知ることになり、その結果、自縛している自己物語を逃れる道を得ることになる。「私は不幸だ」と嘆いている人は、「私は自分を不幸だと思っているんだ」と自己相対化する端緒を得るだろうし、「そのことは自分にとって不幸なのか?」と客観的な視点につながるだろう。

「物語」の仕組みと付き合い方を知ることは、自分自身や周囲との付き合い方を知ることである。人文学の成果を通じて自分と向き合い、前に進ませてくれる名著である。（寺）

まなびのめWeb版 検索

Web版もあります

〈2017・年間閲覧数TOP3！〉
1位　「方言を調べると日本語の歴史が見えてくる」小林隆 先生（第17号）
2位　「大工たちが伝えてきた伝統の建築技術」高橋恒夫 先生（第15号）
3位　「仙台を発展させた政宗の都市計画」菅野正道 さん（第25号）
他、全てのインタビュー記事をご覧いただけます。じっくりとご覧ください。

[招待券] 読者プレゼント！

「学び」イベント情報欄で紹介している「東大寺と東北―復興を支えた人々の祈り―」と「東大寺・奈良を彩る花の襖絵展」の招待券を各1名様にプレゼントします。
4月20日（当日消印有効）までに、下記の応募先へはがき・FAX・E-mailのいずれかでご応募ください。応募多数の場合は抽選となります。

学びの庭におじゃまします
次号テーマ：「におい」
2018年7月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第40号／発行日2018年4月5日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部　川又進　佐藤曜　菅野麻実　三上志穂
オブザーバー：笹氣義幸　寺田征也（明星大学）　佐々木隼相（東北大学大学院）
協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC®認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります
詳しくは中面へ

仙台市発 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2018. 4 第40号

学びの庭におじゃまします 明治150年

維新が宮城の農村を変えた

東北大学大学院　文学研究科　准教授
[日本近代史]
クレイグ・クリストファー 先生

仙台藩への評価は低すぎる

宮城学院女子大学　学芸学部　教授
[日本近世史]
J.F. モリス 先生

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載！ 行ってみよう！「学び」の場所へ
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『人はなぜ物語を求めるのか』（千野帽子）
- Voice Park

Web版 随時更新中！ まなびのめ
http://www.manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細は **Web版に掲載**しております。ぜひご覧ください。http://www.manabinome.com/

定期開催

トワイライトサロン「天文台長土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 17:00▶17:45 無料 申込不要
講　師　土佐　誠（仙台市天文台長）他
場所 仙台市天文台　オープンスペース
主催者 仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300
URL http://www.sendai-astro.jp/

開催中

川内キャンパスのむかしむかし Ⅱ ～仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区～
～5月6日(日) 8:00▶22:00（土・日・祝は10:00開館） 無料 申込不要
場所 東北大学附属図書館エントランス展示コーナー
主催者 東北大学埋蔵文化財調査室　問合先 TEL 022-217-4995
URL http://web.tohoku.ac.jp/maibun/

4 APR

「東大寺と東北」展関連企画「東大寺・奈良を彩る花の襖絵展」
4月7日(土)～5月27日(日) 10:00▶17:00 有料 申込不要
場所 TFUギャラリーMini Mori（ミニモリ）　（入館は16:30まで）
主催者 復興祈念―東大寺展実行委員会（東北歴史博物館、河北新報社他）　問合先 TEL 022-211-1332
URL http://todaiji.exhn.jp/minimori/

第33回企画展「仙台周辺にある鉄道の遺産・遺構を訪ねる」
4月10日(火)～7月7日(土) 10:00▶16:00 無料 申込不要
場所 東北福祉大学・鉄道交流ステーション展示室
主催者 東北福祉大学・鉄道交流ステーション　問合先 TEL 022-728-6612
URL https://www.tfu.ac.jp/rmlc/

ろうさい医イはなし「脳卒中について」
4月11日(水) 13:30▶14:30 無料 申込不要
講　師　高橋　智子（東北労災病院脳卒中科副部長）
場所 東北労災病院　1階待合ホール
主催者 東北労災病院地域医療連携センター　問合先 TEL 022-275-1467
URL http://www.tohokuh.johas.go.jp/

「スポーツ×栄養」公開講演会「一流アスリートの食事」（仮）
4月14日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　細野　恵美（管理栄養士）
場所 尚絅学院大学　5G講義室
主催者 尚絅学院大学健康栄養学科　問合先 TEL 022-381-3300
URL http://www.shokei.jp/

宮城県民芸協会設立50周年記念 企画展 日本民藝館所蔵品による 手仕事の日本―柳宗悦のまなざし―
4月20日(金)～6月3日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要
場所 仙台市博物館　（入館は16:15まで）
主催者 仙台市博物館　問合先 TEL 022-225-3074
URL https://www.city.sendai.jp/museum/

宮城大学公開講座「心のサプリメント―自分が主役の人生を考える―」
4月21日(土) 10:00▶12:00 無料 要申込
講　師　櫻木　晃裕（宮城大学教授）
場所 宮城大学サテライトキャンパス（SS30）2階　定員 30名
主催者 宮城大学　問合先 TEL 022-377-8208
URL http://www.myu.ac.jp/

ぶらりがく「地球生命環境史」
4月21日(土) 13:00▶14:15 無料 要申込
講　師　海保　邦夫（東北大学理学部教授）
場所 東北大学理学研究科合同C棟2階多目的室　定員 50名（先着）
主催者 東北大学理学部　問合先 TEL 022-795-6708
URL http://www.sci.tohoku.ac.jp/campustour/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

学びの庭におじゃまします

今年は「明治 150 年」ということで、様々なとらえ方がされていますが、
「まなびのめ」は、外国出身で日本の歴史を研究している先生に話を聴いてみよう、と思いたちました。
お一人目は、主に農村史を研究されている東北大学のクレイグ先生です。

維新が宮城の農村を変えた

明治維新で農村も近代化した

カナダの出身です。近代国家としての日本が明治元年（1868 年）に始まったとすると、今年は「150 周年」ですね。英国の植民地だったカナダが、自治領として独立したのが 1867 年。去年が「建国 150 周年」でした。明治時代には多くの日本人が移民としてカナダに渡りましたし、現在も日本とカナダは、経済面をはじめとして強く結びついています。

しかし私はそうした国同士の結びつきから、日本史の研究者になったわけではありません。「大学の先生になろう」と志したのは 20 歳代の後半ですが、日本近代史を選択したのは、もともと近代史に興味があり、働きながら休暇を楽しむワーキングホリデーで仙台に 1 年間住んだことがあったからです。そして 3 年前、東北大学が国際交流室の外国人教員を募集したのに応じて、准教授として着任しました。

日本史の時代区分では、安土桃山時代と江戸時代を「近世」、明治維新から第二次世界大戦までを「近代」、それ以降を「現代」と呼ぶのが一般的です。時代の変わり目には、政治や経済などのあらゆる制度や価値観が大きく変化します。江戸時代の制度・価値観は明治維新によって全て否定され、明治以来の制度・価値観は 1945 年の敗戦によってすっかり改革されたと思われがちですが、実は維持されたものも少なくありません。一方で本質的な変化が見逃され、時代の変革に大きな役割を果たした人々や事業が、過小評価されてしまう場合もあります。

東北大学大学院　文学研究科　准教授
専門＝日本近代史

クレイグ・クリストファー先生

《プロフィール》(CRAIG Christopher Robin Jamie) 1975 年カナダ生まれ。ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）歴史学部卒業。同大学院歴史学修士課程修了。コロンビア大学大学院（米国）歴史学博士課程修了。博士（歴史）。同課程在籍中にコンコルディア大学（カナダ）、ブリティッシュコロンビア大学で講師を務め、2015 年より現職。著書に『わたしの日本（ニッポン）学び』（共著）など。

私は宮城の農村や農民の歴史を調べるうちに、まさにこの問題に氣がつきました。近代化というと農業ではなく工業、農村ではなく都市を思い浮かべる人が多いでしょう。むしろ農村や農民は「前近代」を象徴する、「遅れたもの」「取り残されたもの」と考えられがちです。日本の場合は第二次大戦後、地主の土地を耕していた「小作農」が、連合国軍の占領政策によって農地を買い入れ「自作農」になった農地改革の印象が強いこともあって、明治維新による農村の変化には十分目が向けられてきませんでした。

しかし私は、たとえば宮城の鎌田三之助（かまたさんのすけ）らが進めた品井沼（しない）の干拓事業などの調査を通じて、農業や農村も近代化して歴史的に重要な意義を担ったこと、農民が日本社会の近代化に受け身的に関わっただけでなく、積極的にその形成過程に参加したことを知りました。鎌田ら農村の中心人物たちは、維新の英雄たちのようには近代化を進めなかったかもしれません。でも、そもそも近代の本質とは何でしょうか。江戸時代に日本の人口の 8 割以上を占めていた農民や、生産力の基盤だった農業を無視して、日本の近代化を正しく捉えることはできるのでしょうか。

宮城には「近代性の媒介者」がいた

宮城県にかつてあった品井沼は、たびたび洪水を起こして地域を苦しめていました。排水路を築くなどして農地に変えようとする試みは、300 年以上前の江戸時代から始まっています。しかし工事は困難で、治水・干拓しては再び洪水を起こすということを繰り返してきました。

明治元年の 5 年前、1863 年に地元の大地主の家に生まれた鎌田三之助は、30 歳代で宮城県会議員と衆院議員になり、1909 年（明治 42 年）に当時の鹿島台村長に就任します。その後 38 年間も無報酬で村長を務め、村の財政の建て直しに取り組みました。鎌田は品井沼の干拓でもトンネル排水工事を指揮し、農地が広がる現在の姿の基礎を作ったのです。

明治維新を説明する教科書や事典には、制度改革のキーワードが次々と出てきます。土地や農業に注目すれば、大名が土地と人民を朝廷に返した 1869 年の「版籍奉還」から、中央集権化を進めた 1871 年の「廃藩置県」、そして土地の私的所有を認め、税を米ではなく地価の 3 パーセントの金納に変えた 1873 年の「地租改正」へと進みました。

一揆が起こって地租率が 2.5 パーセントに下げられるなど、農民と政府の間には緊張関係もありました。しかしそれまで大名のものだった土地の私有と売買が認められ、交通の発達や移動の自由によって農民同士の交流や技術情報の交換が進むと、家と地域の利益を追求する熱氣が農村に広がり、農業の生産力は向上したのです。鎌田のように、大地主として命令するのではなく、村の代表として政府と農民の間に立ち、中央から情報と資金を獲得してきたり、住民への説明と説得を尽くそうとしたりする指導者も各地に生まれました。

明治維新では、農業や農村も間違いなく近代化しました。そして農民たちは地域の代表者を媒介として、積極的に近代化に関与したのです。鎌田らは、きわめて優れた「The Middlemen of Modernity（近代性の媒介者）」でした。こうした状況は 1880 年代、大蔵卿・松方正義による「松方デフレ」と呼ばれる財政政策によって、多くの自作農が小作農や賃金労働者へと変わってしまうまで続きます。

機械化による生産力の向上や、民主的な政治制度をはじめ、近代は多くの価値を実現したかもしれません。かつては「人類は歴史の到達点に至った」と考える人たちさえいました。しかし技術の急速な進歩で起こる仕事や生活の激変に苦しむ人がいたり、国境を越えて移動する資本が経済格差をさらに広げたりするなど、近代以前にはなかった問題も深刻です。今の私の目標は、歴史的な事実に基づいて「近代」について考え直し、その新たな理念を打ち立てることです。

漫画「ドラゴンボール」で日本語を学ぶ

私は大学に 3 回入っています。最初に入った大学では英文学を学んだのですが、途中で目標を見失って退学してしまいました。その後はアルバイトを転々。

「このままではいけない」と思っていた時、友人が「ワーキングホリデーで日本に行く」と言うのを聞いて、私もチャレンジすることにしました。日本に関心があったわけでも、日本語を学んでいたわけでもないのに来てしまったのです。仙台を選んだのも、たまたま英会話の先生の募集を見つけたからに過ぎません。

仙台では言葉が通じないことの大変さに驚き、日本人がよく魚を食べることに驚き、地震の多さに驚きました。しかし神社や城などの古い建物は魅力的で、都市の規模も私にはちょうど良かった。妻となる日本人女性にも出会えて、私は日本という

よりも仙台が大好きになってしまったのです。

日本語は、主に子ども向けの漫画で学びました。ひらがなさえ覚えれば、漢字に振り仮名がついているからです。鳥山明さんの『ドラゴンボール』は、特に氣に入りました。

期限の 1 年が過ぎて、私は妻とカナダに戻りました。またアルバイト生活が始まりましたが、もっと安定した良い仕事に就こうと、再び大学に入り直します。そこで受けた歴史の授業が面白く、「大学の歴史の先生がいいかも」と思うようになりました。自分の強みと言えば、1 年間の仙台生活と漫画と妻に学んだ日本語だけです。日常会話なら半分くらいできるというレベルでしたが、思い切って日本史の研究で有名なブリティッシュコロンビア大学に入り直しました。

本格的に日本語を読むことから学び始めましたが、今度は卒業まで頑張りました。さらに修士課程、米国の大学の博士課程へ進み、研究者として仙台に戻ってくることができたのです。

実は 10 年近くに及んだ米国での博士課程の間も、調査研究のために約 2 年間、仙台で暮らしています。2011 年 3 月の東日本大震災の時も仙台にいましたが、住んでいた古いアパートが壊れなかったのは幸運でした。

震災を経験したことから、私の研究テーマには「地震の歴史」が加わりました。今年の 3 月にはベルギーで、1933 年（昭和 8 年）の「昭和三陸地震」について学会発表を行っています。

昨年は韓国で、東北地方から満州へ渡った人々について報告し、日本語で論文も書きました。現在の所属は国際交流室ですが、2019 年度からは日本学研究室が開設され、私はそこに移って研究を続ける予定です。宮城の皆さん、これからもよろしくお願いいたします。

（取材＝ 2018 年 2 月 26 日／東北大学川内キャンパス
文学研究科研究棟 2 階　クレイグ研究室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　品井沼の干拓事業で大きな功績を残した人物と言えば？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。モリス先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2018年5月31日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

お二人目は、宮城学院女子大学のモリス先生。
明治期は専門ではないとのことですが、近世における仙台藩の仕組み・様子などから、
近代の明治維新を見てみようとお話を伺いました。

仙台藩への評価は低すぎる

江戸時代の東北の武士に関心

オーストラリアの出身です。日本とオーストラリアは互いに重要な貿易相手国で、私が大学に入ったのは、日本がまだ高度経済成長を続けていた 1971 年。私は大学で日本語を学び、経済学部とアジア研究学部の両方で学位を取ろうと考えていました。しかし残念ながら数値に弱かった（笑）。経済学部は断念し、結果として日本史の道に進むことになったのです。

1974 年に東北大学文学部の国史研究室に入って以来、米国の大学で 4 年間教えた以外はずっと日本に住んでいますから、あわせて 40 年になります。日本語で書いた博士論文は、『近世日本知行（ちぎょう）制の研究』という本になりました。2001 年に発行された『仙台市史 通史編 3・近世 1』の中の、「農村と武士」という項目約 30 ページは私が書いています。

私は直接古文書（こもんじょ）を読みます。3 年前に出した『仙台藩「留主（るす）居（い）」役の世界』という本の元になった研究は、江戸時代に書かれた帳簿が出発点でした。襖の裏張りにされていて保存状態が良くなかった上、これがひどい悪筆で（笑）。解読に苦労していた 7 年前、自宅のある多賀城市内で東日本大震災に遭遇し、あやうく津波に襲われるところでした。

私の主な研究対象は江戸時代の仙台藩と南部藩、今の宮城県と岩手県の武士の生活です。日本史の舞台というと、奈良・京都を含む畿内や、江戸・東京のある関東がまず思い浮かぶと思います。ところが東北地方の歴史を詳しく調べると、日本近世史の常識とされてきたことのいくつかが、あまりにも一面的であることが分かったのです。

仙台藩や南部藩が特別だったわけではありません。むしろかつて研究対象に選ばれていた地域が限定的だったために、日本全体の封建制度のあり方を正しく捉えられていなかったのです。また、東北の諸藩は維新期に奥羽越列藩同盟を結んで戊辰戦争を戦い、新政府軍に敗れました。官軍側に賊軍とおとしめられ、「開明的」な西の雄藩に対して「後進的」と決めつけられたことから、研究対象として避けられていたのかもしれません。

今回のテーマは「明治 150 年」ですが、私は江戸時代が専門で明治維新の研究者ではありません。だからこれは単なる感想として聞いてください。私は仙台藩の幕末維新期の評価は、不当に低すぎると思います。他藩と比べても人物がいないとか、藩の政治や経済の仕組みが戦国時代のままで時代に遅れたとか、領内に家臣たちが割拠していてまとまりが無いとか、主に官軍側の記録に基づいた認識が定着しています。

しかし仙台藩が生んだ林子平、高野長英、工藤平助、玉蟲左太夫らは間違いなく一流の人物でした。政治・経済の仕組みについては、仙台藩が戦国時代以来の「地方知行制」を幕末まで維持し、江戸時代に広がった「蔵米（くらまい）知行制」をほぼ採らなかったことは事実です。しかしこれには合理的な理由がありましたし、仙台藩だけが特殊だったわけではありません。これが私の研究テーマの一つです。

仙台藩は特殊ではなかった

封建制度とは一言で言えば「土地を仲立ちにした支配関係」のことで、日本の江戸時代だけでなく、中国古代や中世ヨーロッパでも行われました。しかし政治や経済や社会の仕組みはそれぞれ異なりますし、封建制度という言葉も、国全体の体制を表す広い意味から、特定の主従関係を表す狭い意味まで様々です。

近世の日本では、当初は「地方知行制」が一般的でした。しかし 17 世紀の後半からは多くの藩で、年貢高にあたる米を支給する「蔵米知行制」が採用されます。「江戸時代の武士は支配地を持たないサラリーマンだった」というイメージがあるのはこのためです。

しかし封建制度は経済体制であると同時に、武士たちの軍事体制でもあります。戦国期、伊達家は早くから、自らが軍事動員できる人員と、家臣が動員できる人員を身分的に分けていました。仙台藩が軍事動員できる人数が、領内の人口に比して多かったのは、地方知行制の維持によって、家臣が知行地にたくさんの武士を抱えていたからです。

仙台藩の武士身分の人口比は江戸中期でも 2 割を越え、全国平均の 3 倍から 4 倍に上っていました。その 3 分の 2 は伊達家ではなく家臣が抱えていましたから、仙台藩では農村に武士がたくさんいるのが当たり前だったのです。

私が日本で研究を始めたころは、「地方知行制は江戸期を通じて形骸化した」というのが定説でした。しかし実は「地方知行制は仙台藩に限らず広く存続していた」のです。18 世紀終盤の記録では、地方知行制を残す大名の数は 1 割代半ばですが、所領規模では日本の大半を覆っていました。すっかり江戸時代の話になってしまいましたね。詳しいことは、図書館で私の本を読んでいただければと思います。

東北とオーストラリアの共通性

私はオーストラリアの大学に在学中、2 カ月間日本に来たことがあります。主な目的は日本語力の向上で、埼玉県内にホームステイをしながら、主に奈良・京都、四国、九州を回りました。滞在中はとにかく楽しくて、すっかり「日本に来たい病」にかかってしまったのです。

大学の成績は悪くなかったので、日本の国費留学生に選ばれました。当時、留学先について希望どおり認められるのが普通でした。私はへそ曲りなので、首都の東京や「ニッポン大好き外国人」が集まる京都には住みたくなかった（笑）。暑すぎるのも寒すぎるのもイヤだし…と、未知だった仙台の東北大学を選んだのです。

もちろん研究のことも考えましたよ（笑）。オーストラリアで読んだ日本史の本には、東北地方のことはほとんど書かれていませんでした。近世は「伊達騒動」だけ。明治維新も西の雄藩の話ばかりで、東北は戊辰戦争で負けたというだけの記述です。そこで「金沢や仙台など東の大藩は何をやっていたのか」「これは歴史研究の穴場かもしれない」と（笑）。

私が初めて仙台に来たのは 1974 年です。当時の人口は 60 万人ほど。街には市電が走っていて、東北自動車道はまだ通っていませんでした。住んでみたら本当に良いところで、東北大学で学部から博士課程まで 10 年間暮らしました。1978 年の宮城県沖地震も経験しています。米国の大学に 4 年間勤めた後、1989 年、仙台に大学教員として戻ってくることができました。

実は最初仙台に来た時は、「なぜ東北の人たちはこんなに自分たちに自信がないのだろう」と不思議でした。何かというと東京と比べ、経済力でかなわないとか、文化的に遅れているとか言って嘆く。「もっと誇りを持っても良いのでは」と思いましたが、東北の歴史を学ぶうちに、「これはオーストラリアと似ている」と思うようになりました。

1901 年に建国されたオーストラリアは、かつては英国の植民地でした。元々先住民が暮らしていましたが、18 世紀にヨーロッパ人の入植が始まった時、その多くは流刑者だったのです。建国後もヨーロッパ的な視線からは、先住民や「流刑者の子孫」に対する差別的な意識が消え去ることはありませんでした。そのためオーストラリア人は、自分たちの歴史やアイデンティティーについて考えたり語ったりする時、単純な誇りを持つことをためらうのです。同じように東北の人たちは、戊辰戦争に敗れ、経済的に遅れをとり、田舎だと笑われるうちに、持っていいはずの自信まで手放してしまったのかもしれません。

でも、1970 年代にお話を聞いた高齢者の方々には氣概がありましたね。私がお会いしたのは主に伊達藩士の子孫たちでしたが、「俺たちは官軍にすり寄らなかった」と、まるで自分のことのように（笑）力説していました。私も西の雄藩が抵抗を受けることなく日本を統一していたら、もっと独裁に走っていただろうと思います。国民国家や立憲制を目指させたという意味で、戊辰戦争は決して無駄な戦いではなかったのです。

東日本大震災では大きな被害があった一方で、地震や津波がきっかけとなって、旧家の蔵などに眠っていた多くの貴重な史料の存在が明らかになりました。これからもそうした史料の解読と分析を進め、仙台藩や江戸時代の、武士社会の解明に取り組みたいと思っています。

（取材＝ 2018 年 2 月 27 日／多賀城市内のご自宅にて）

宮城学院女子大学　学芸学部　教授
専門＝日本近世史

J.F. モリス先生

《プロフィール》（John Francis MORRIS）1952 年オーストラリア生まれ。オーストラリア国立大学アジア研究学部卒業。東北大学文学部学部研究生。東北大学大学院 文学研究科 博士前期課程。同後期課程。文学博士。コルゲート大学（米国）、コロンビア大学（米国）で講師・助教授、宮城学院女子短期大学で助教授・教授を務め、2000 年より現職。著書に『近世日本知行制の研究』、『近世武士の「公」と「私」 仙台藩士玉蟲十蔵のキャリアと挫折』、『仙台藩「留主居」役の世界　武士社会を支える裏方たち』など。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 家臣に農地を割り与え、そこから年貢を取らせる制度を何と呼ぶ？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。クレイグ先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2018年5月31日 当日消印有効

キーワード・タグ検索もできます

Web版はより多くの情報を随時更新しています。

まなびのめ 検索

http://www.manabinome.com/

4 APR

アースデイ講演会「黒潮大蛇行―12年ぶりに起こった大蛇行とその影響―」

4月22日(日) 14:00▶15:30 無料 申込不要

講　師　花輪　公雄（元東北大学大学院理学研究科教授）

場所 仙台市天文台加藤・小坂ホール　定員 50名（小学校高学年以上対象）

主催者 仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300

URL http://www.sendai-astro.jp/

ろうさい医イはなし「泌尿器疾患について」

4月25日(水) 13:30▶14:30 無料 申込不要

講　師　阿部　優子（東北労災病院泌尿器科部長）

場所 東北労災病院　1F 待合ホール

主催者 東北労災病院地域医療連携センター　問合先 TEL 022-275-1467

URL http://www.tohokuh.johas.go.jp/

市民公開講座No.423「プルトニウム（Pu）の体内挙動と内部被ばく線量について」

4月27日(金) 18:00▶19:30 無料 申込不要

講　師　梅田　健太郎（東北工業大学 共通教育センター教授）

場所 東北工業大学一番町ロビー2階ホール　定員 120名

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538

URL http://www.tohtech.ac.jp/

第151回サイエンスカフェ：土砂災害入門　～斜面はなぜ崩れるのか？～

4月27日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要

講　師　森口　周二（東北大学災害科学国際研究所准教授）

場所 せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア

主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132

URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

企画展「灯りのかたち」

4月28日(土)～7月1日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要

場所 仙台市歴史民俗資料館

主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

URL http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~rekimin/

東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北―復興を支えた人々の祈り―」

4月28日(土)～6月24日(日) 9:30▶17:00 有料 申込不要

場所 東北歴史博物館特別展示室　（入館は16:30まで）

主催者 復興祈念―東大寺展実行委員会（東北歴史博物館、多賀城市他）　問合先 TEL 022-368-0106

URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

講演会「重源上人模刻像制作秘話」

4月28日(土) 10:30▶12:00

講　師　狭川　普文（華厳宗管長・第222世東大寺別当）他　（但し本展の観覧券が必要）　無料　申込不要

場所 東北歴史博物館講堂　定員 280名

主催者 復興祈念―東大寺展実行委員会（東北歴史博物館、多賀城市他）　問合先 TEL 022-368-0106

URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

5 MAY

市民公開講座No.424「大学と企業が考えるシステムエンジニア」

5月11日(金) 18:00▶19:30 無料 申込不要

講　師　松田　勝敬（東北工業大学 情報通信工学科准教授）

場所 東北工業大学一番町ロビー2階ホール　定員 120名

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538

URL http://www.tohtech.ac.jp/

講演会「鎮護国家と東大寺」

5月13日(日) 13:30▶15:00

講　師　堀　裕（東北大学大学院准教授）　（但し本展の観覧券が必要）　無料　申込不要

場所 東北歴史博物館講堂　定員 280名

主催者 復興祈念―東大寺展実行委員会（東北歴史博物館、多賀城市他）　問合先 TEL 022-368-0106

URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

市民公開講座No.425「コミュニケーションの行き違い：人の場合・機械の場合」

5月18日(金) 18:00▶19:30 無料 申込不要

講　師　井上　雅史（東北工業大学 情報通信工学科准教授）

場所 東北工業大学一番町ロビー2階ホール　定員 120名

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538

URL http://www.tohtech.ac.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

参加体験記

「学び」イベントに行ってきました

■サテライトキャンパス公開講座「心の発達からみるパーソナリティ」
講師：仙台青葉学院短期大学准教授　飯塚　有紀　氏
2017年12月2日（土）　仙台市市民活動サポートセンター　6F セミナーホール

看護師です。学生時代に発達学を学びました。当時は仕方ないのですが、“勉強”として覚えていた部分があります。

社会人として現場に出て色々な人達と出会ったり、自分自身の生い立ちを振り返ったりして、改めて発達学に興味を持ち始めていた所でした。受講して発達学の奥深さに更に関心を抱くことができました。

そして、疑問に思ったことや興味関心を持ったことは、調べたり、専門の方の話を聞いたりなどして、学びを深めていくことが大切だと改めて思いました。　（柴田郡柴田町　S. D.）

■サテライトキャンパス公開講座「イエスの譬を読む」
講師：東北学院大学教授　佐藤　司郎　氏
2017年12月9日（土）　仙台市市民活動サポートセンター　6F セミナーホール

聖書は何度か触れる機会があったのですが、難しくて深く学ぶことはありませんでした。今回、聖書の中の2ヶ所について、詳しく教えていただき、イエスの考えを知ることができました。またイエスは、たとえを用いないで話すことはなかったということや、常に神ならどうするかを考えていた、という部分も興味深かったです。
（あきはいれい）

■講座仙台学2018「伊達政宗のまちづくり―城下町仙台の成り立ち」
講師：宮城学院女子大学非常勤講師　木村　浩二　氏
2018年1月20日（土）13：00～14：30

講師はまちあるき『ブラキムラ』の木村浩二先生ということで大変楽しみに受講致しました。

仙台城と若林城を要とし城下町が形成されたこと、政宗公が何故仙台城をあの場所に築城したのか、いままでは歴史的な面からしか学んでいなかったことを、地理的に学ぶことが出来ました。

また、木村先生は仙台段差崖会の代表でもあり、広瀬川の河岸段丘や四谷用水の事も400年前の古地図と現在の地図を重ね合わせての説明で大変わかりやすかったです。私も是非、古地図を購入して街歩きをしてみたいと思いました。まなびというと、ついつい机上の勉強を優先にしてしまいますが、実際に歩いてのまなびも大切だと感じました。

こうした「学び」イベントに参加するたびに、知らないことを吸収する『学ぶ喜び』がありますが、既に自分が知っていることを講師の先生がお話しくださることで自分の学びが蓄積されている（糧になっている）確認もできたりして、それもまた嬉しく感じます。（オタク的発言ですみません）

これからも積極的に機会を作り、学んでいきたいと思います。「まなびのめ」は私の向学心のサポートをしてくれる強い味方です。

編集部の皆様、今後とも宜しくお願い致します。寒い日が続きますが、お身体ご自愛くださいませ。　（さとうのりこ）

「学び」イベントに参加したら感想を書こう！

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！
※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
■ 投稿方法　はがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームにて受付。
■ 投稿先　「まなびのめ」編集部　※詳細は最終ページをご覧ください。

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第40号・春／「桃」（momo）

参加体験記

編集部も「学び」イベントに行ってきました

■東日本大震災復興祈念特別展
「東大寺と東北―復興を支えた人々の祈り―」記者発表会
プレ講演会「東大寺における復興の歴史」
講師：華厳宗管長・第222世東大寺別當　狭川　普文　師
2018年1月31日（水）　東北歴史博物館講堂

東北歴史博物館にて4月28日（土）～6月24日（日）に開催される東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北―復興を支えた人々の祈り―」の記者発表会とプレ講演会に参加してきました。

記者発表会では、多賀城市と奈良市は友好関係にあり「東大寺の歴史と復興の道のりが、東日本大震災からの一日も早い復興を願う東北の『未来への道しるべ』になりうる」ということで東大寺の特別な協力を得て東北で初めて国宝17点、重要文化財25点を含む東大寺の寺宝や史料が一堂に会す運びになったと説明がありました。

実は東北と東大寺との関わりは古く、東大寺の廬舎那仏造営時には陸奥国小田郡（現・涌谷町）で産出した金が使用され、平安後期にあった戦火からの復興時には奥州藤原氏の砂金が注目され、大勧進・重源上人の依頼で西行法師が奥州に赴いた記録があるとのこと。

プレ講演会では、狭川普文師のテンポのよい話が面白かったです（関西のノリ、という感じで）。東大寺の創建、主な被害や修理事業について年表で確認し、2度の戦火での焼失、落雷や地震など天災による被害、そしてそのたびに復興してきたことが語られました。

東大寺が聖武天皇の発願で創建されたことや、光明皇后により全国に施薬院が設置されたことはご存じのとおりですが、《従来の「官」による一方的な事業ではなく、一般の人々の知識・協力を得て「みんなで作った」から、災害にあっても「みんなで直す」ことで再興・修理し、現代まで続いている》というお話が印象的でした。

4月28日（土）にも狭川師が講師を務める講演会が開催されます。読者のみなさんも、楽しい講演を聞いてみてはいかがでしょうか。その他にもワークショップやコンサートなど関連イベントが多数開催されます。東大寺のミュージアムがほぼ空になるほどの点数が集まるという貴重な機会ですので、（関連イベントは申し込み期限や定員など事前にしっかりチェックして！）ぜひご参加ください。

「まなびのめ」編集部　三上志穂

読者の声

Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第39号　シリーズ「東日本大震災」【7】―芸術・文化―

被災者に風化はあり得ないというのは、まさにその通りだと思った。
（角田市・32歳　男性）

編：被害の少なかった私などはやはり忘れていることも多いと節目節目で思わされます。人的・物的に大きい被害を受けた方の氣持ちに「寄りそう」、というのは口で言うよりもかなり容易なことではありませんね。だからこそ、節目にだけでも思い出したり、忘れないようにしたり、ということが大事なのだと思います。

なかなか聞けない先生方の研究など、わかりやすく、切り口が鮮やかで短くメモをしておいて、会合などのときの話の中に入れています。
（仙台市太白区・72歳　男性）

編：「まなびのめ」を十分にご活用いただき、ありがとうございます。話のネタをどんどん増やしていただけるよう頑張ります。

その他のお便りと編集部からのコメントはWeb版でご覧いただけます。

第39号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第39号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 桜の植樹で津波到達地を後世に伝えようとするプロジェクトの名称は？
答え 「桜3.11学校プロジェクト」

Q.2 災害研・気仙沼サテライトオフィスが定期開催する「学び」イベントは？
答え 「防災文化講演会」

図書カード1,000円分　図書カード1,000円分　図書カード1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カードが当たります**ので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

これからの主な

「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

5 MAY

宮城大学公開講座「認知症の方と笑顔で付き合おう！　失敗したっていいじゃない！」

5月19日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込

講　師　渡邊　章子（宮城大学講師）

場所 宮城大学サテライトキャンパス（SS30）2階　定員 30名

主催者 宮城大学　問合先 TEL 022-377-8208

URL http://www.myu.ac.jp/

記念講座「柳宗悦と仙台の民芸」

5月19日(土) 13:30▶14:30 無料 要申込

講　師　濱田　淑子（宮城県民芸協会副会長）

場所 仙台市博物館ホール　定員 200名

主催者 仙台市博物館　問合先 TEL 022-225-3074

URL https://www.city.sendai.jp/museum/

市民公開講座No.426「これからの建築構造に求められる役割～地震被害から考える建物の安全性～」

5月25日(金) 18:00▶19:30 無料 申込不要

講　師　畑中　友（東北工業大学 建築学科助教）

場所 東北工業大学一番町ロビー2階ホール　定員 120名

主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538

URL http://www.tohtech.ac.jp/

第152回サイエンスカフェ：先生、それって量子の仕業ですか？　～量子力学とコンピュータの出会い～

5月25日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要

講　師　大関　真之（東北大学大学院情報科学研究科准教授）

場所 せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア

主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132

URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

特別講演会「笑って健康、笑って長生き」

5月26日(土) 16:30▶17:30 無料 申込不要

講　師　立川　らく朝（落語家・医学博士）

場所 勝山館

主催者 東北大学艮陵同窓会　問合先 TEL 022-717-8181

東北医科薬科大学附属薬用植物園見学会

5月27日(日) 10:00▶12:00 無料 要申込

場所 東北医科薬科大学附属薬用植物園

主催者 東北医科薬科大学　問合先 TEL 022-727-0086

URL http://www.tohoku-mpu.ac.jp/garden/

講演会「東大寺の彫像―鎌倉復興期の作例を中心に―」

5月27日(日) 13:30▶15:00 無料 申込不要

講　師　岩田　茂樹（奈良国立博物館上席研究員）　（但し本展の観覧券が必要）

場所 東北歴史博物館講堂　定員 280名

主催者 復興祈念―東大寺展実行委員会（東北歴史博物館、多賀城市他）　問合先 TEL 022-368-0106

URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

6 JUN

講演会「写真家から見た東大寺の魅力」

6月3日(日) 13:30▶15:00 無料 申込不要

講　師　三好　和義（写真家）　（但し本展の観覧券が必要）

場所 東北歴史博物館講堂　定員 280名

主催者 復興祈念―東大寺展実行委員会（東北歴史博物館、多賀城市他）　問合先 TEL 022-368-0106

URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

第52回リベラルアーツサロン：信頼をめぐる謎――なぜ人は裏切られるかもしれないのに他人を信頼するのか？

6月8日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要

講　師　佐藤　嘉倫（東北大学大学院文学研究科教授）

場所 せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア

主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132

URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

講演会「貞観地震と東北の復興」

6月17日(日) 13:30▶15:00 無料 申込不要

講　師　佐川　正敏（東北学院大学教授）　（但し本展の観覧券が必要）

場所 東北歴史博物館講堂　定員 280名

主催者 復興祈念―東大寺展実行委員会（東北歴史博物館、多賀城市他）　問合先 TEL 022-368-0106

URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略